

湖陵は 進化する

令和6年度から

普通科 → 文理探究科
理数科 → 理数探究科 に進化

※学科の名称は令和5年9月に正式に決定します。

- II型制服(旧女子制服)をブラッシュアップ
- 生徒が考える「学校生活を過ごすために」(生徒心得)を制定
- 文理探究科は釧路学区以外からの就学枠を拡大(10→20%)

※令和5年10月までに正式決定します。

湖陵の進化がわかる!

新学科説明会

令和5年8月20日(日)
釧路市生涯学習センター
「まなぼっと幣舞」
2階大ホール

- 参加対象: 中学生、その保護者、教職員、
その他教育関係者 等
- 参加料: 無料
- 申込方法: 右上のQRコード、または本校に
直接お申し込みください。
- その他: 当日の参加も一部可能です。

【受付・オープニング】

9:10~9:30 歓迎コンサート

【第1部】

9:40~10:00 生徒による探究活動の発表

10:00~10:50 開会式・新学期の説明・
入試に関する説明

【第2部】

11:00~12:00 シンポジウム
「湖陵の新たな学びの形」
閉会式



主催: 釧路湖陵高校、釧路湖陵高校生徒会
共催: 北海道教育庁釧路教育局、釧路市教育委員会
後援: 釧路市、釧路湖陵高校同窓会、釧路湖陵高校PTA

北海道釧路湖陵高等学校

〒085-0814 釧路市緑ヶ岡3丁目1番31号 TEL:0154(43)3131



詳しくはこちら▼

<http://www.koryo946.hokkaido-c.ed.jp/>

Hokkaido Kushiro Koryo High School

文理探究科ガイド2024

令和6年4月 文理探究科がよいよスタートします



やりたいことを
ちゅてみる!

北海道釧路湖陵高等学校

文理探究科
理数探究科



文理探究科 Q & A

「文理探究科」と「普通科」の違いは何ですか。

「文理探究科」は、これまでの「普通科」の学習に加えて、「チーム湖陵」の支援のもと、「探究的な学習」を重視しながら、より高い学力を身に付けることができる、新しいタイプの「進学重視型のスーパー普通科」です。

「探究的な学習」とはどのような学習ですか。

生徒が自ら課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動のことです。大学における学びを先取りしています。

「チーム湖陵」からはどのような支援がありますか。

「チーム湖陵」とは、国内外の大学や試験研究機関、自治体、企業などによる湖陵高校の応援団です。講演や訪問、オンラインなどにより、高校の先生だけでは対応しきれない皆さんの興味・関心に応えます。

「文理探究科」卒業後はどのような進路が考えられますか。

「文理探究科」は、2年生から、「人文重点（文系）」と「理数重点（理系）」のモデルを参考に進路希望に応じて、科目を選択して学びます。どちらも難関大学をはじめ、大学進学を目指す生徒に対して、きめ細かな学習指導を行い、希望する進路実現が図れるようバックアップします。



湖陵は
進化する

令和6年度から

普通科 → 文理探究科
理数科 → 理数探究科 に進化

※学科の名称は令和5年9月に正式に決定します。

【文部科学省指定】

スーパーサイエンスハイスクール事業
新時代に対応した高等学校改革推進事業

北海道
釧路湖陵
高等学校

〒085-0814 釧路市緑ヶ岡3丁目1-31
TEL:0154-43-3131 FAX:0154-43-3134

公式HP : <http://www.koryo946.hokkaido-c.ed.jp>

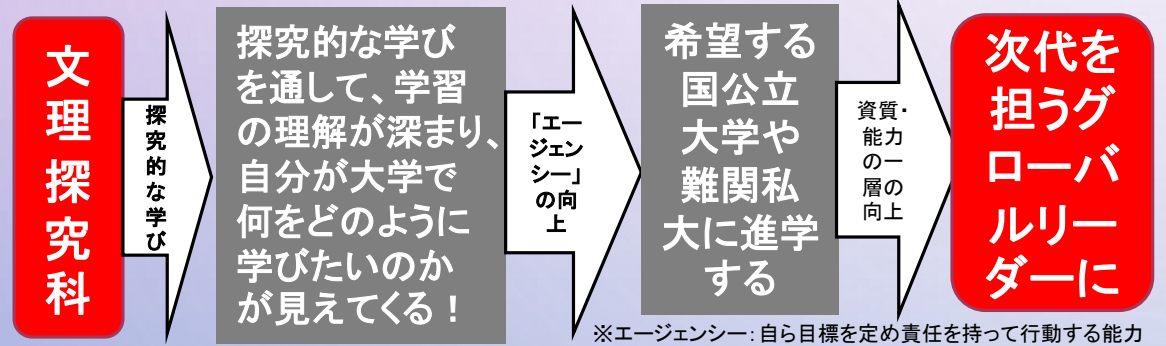
高き希望を湖陵で実現

文理探究科がめざすもの

文理探究科が目指す生徒とは

次代を担うグローバルリーダー

- 新たな社会的な価値の創造と科学技術分野の発展に貢献できる生徒
- 向学心や探究心を身に付け、自己の進路決定に向けて意欲的に取り組み行動する生徒
- 多様化する国際社会において主体的かつ協働的に取り組む資質・能力を身に付けた生徒



釧路湖陵高校には**理数探究科**と**文理探究科**があります

理数探究科 (1クラス)

学校設定科目「KCS」	理科・数学の学習を重視
ハイレベル授業	理科は3分野の学習

目指す進路
医、薬、理、工、農学部等の理系学部 等

文理探究科 (4クラス)

学校設定科目「KQ」	1年生は共通の教科科目を学習
進路別にモデル選択	理科は2分野の学習

目指す進路
法、経済、文、教育などの文系学部 医、薬、理、工、農学部等の理系学部 等

やりたいことをやってみる

文理探究科の学び

湖陵クエスト (KQ)

「湖陵クエスト」は、生徒の皆さんの「知りたいこと」「学びたいこと」を大切にしながら、探究的な学びを深める湖陵高校独自の教科です。クエストの語源は、ご存じの「○○クエスト」！皆さんも、「湖陵クエスト」で学びの冒険に出かけませんか。

1年

- 地域の社会や自然を知るための基礎的な力を身に付けます。
- 様々な分野の講演やフィールドワークなど体験的な学習を重視します。

知る



釧路湿原フィールドワーク



カーボンニュートラルゲーム



データサイエンス学習

2年

- 自ら課題を設定して、資料の収集・分析などを通して探究します。
- 大学や企業、自治体等の専門家の支援を得ながら研究をします。

探究する



グループワーク



博物館学芸員の講演



ポスターセッション

3年

- 大学や自治体等に研究成果を発表し、社会課題等に提言します。
- 海外の大学等と交流したり、各種コンクールなどにも成果を発信します。

創造する



JICAの研修生との交流



英語によるプレゼンテーション

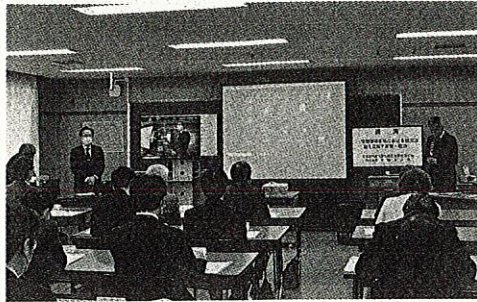


大学での共同研究

※2年、3年の取組については、これまでのスーパーサイエンスハイスクールの活動を参考にしています。

世界で活躍する人材を 釧路湖陵高 普通科新学科設置へ 事業推進へコンソーシアム

【釧路発】釧路湖陵高校(塙浩伸校長)は「令和の日本型学校教育」における普通科改革を踏まえた「普通科新学科設置」に向け各種取組を進めている。3月下旬には、同校で新時代に



対応した高校改革推進事業(普通科改革支援事業)釧路湖陵高校第1回コンソーシアムを開いた。写真。コンソーシアム登録メンバーは約70人がハイブリット形式で参加。先進校等の取組状況や同校の探究活動の様子を報告することで、事業の円滑な推進に向け共通理解を図った。

またコンソーシアム登録メンバーの共通理解を図るとともに、総合的な探究の時間などに係る同校教育活動の改善・充実に向け探究協議を行うもの。開会に当たり塙校長があいさつ。「世界で活躍する人材育成を目指した学習環境の充実に向けて、関係機関の皆さんと『協働』を進めていくために忌憚のない意見をいただきたい」と協力を求めた。

引き続き、事業運営に関して客観的に指導助言を行う運営指導委員会の委員を務める道教育大学教職大学院教育学部の赤間幸人特任教授が「学際領域に関する学科における探究活動と目指す資質・能力」と題して講演した。高校改革の全体像や学習指導要領に基づ

くこれからの時代に求められる資質・能力などを示した。引き続き、道教委高校教育課の前野文繁主査による講話。「新時代に対応した高等学校改革支援事業(普通科改革支援事業)概要について」と題し、コンソーシアムの役割や事業の趣

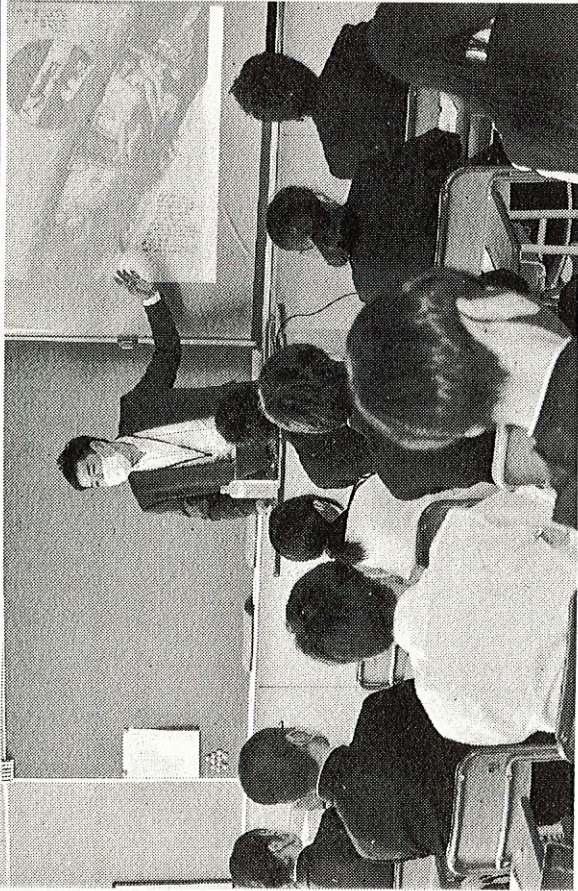
旨・概要について説明した。このあと、塙校長と古野輝昭副校長、木元秀子教育コーディネーターによる道外先進校等の取組状況等に関する報告などを通して、事業の関係者であるコンソーシアムメンバーに共通理解を図った。

市の産業や文化理解

釧湖陵高 博物館が出前授業

釧路湖陵高校(増浩伸校長、生徒数999人)で14日、釧路市立博物館(松本敦館長)の出前授業が行われた。普通科の1年生200人が同館の学芸員から、釧路市の産業や地域史、生息する生物、アイヌ文化についての講義を受け、理解を深めた。(嶋守善一)

この出前授業は「総合的な探究の時間」の学習活動を充実させるため、同校が今年度から実施している学校設定科目「RQ(湖陵クエスチョン)」の一環。RQでは外部講師による出前講義やフィールドワークなどが行われ、生徒たちは探究活動に向けた知識や技術、手法を習得する。



炭鉱について講義する石川学芸主幹

この日は同館の5人の学芸員がそれぞれの専門分野について講義を行った。このうち、石川学芸主幹は「君たちは『炭鉱』を知っているか?」と題して展開。地下資源の石炭がエネルギー源として産業革命の立役者であること、九州と北海道に炭田が多くあり、道内では石狩炭田が最大で釧路炭田がそれに次ぐ規模と紹介した。

また、炭素資源の在り方である石炭層を機械化しながらも、基本的には人力で石炭を掘削しなければならず、他地域では数千人が一層に下がった事故が発生したことも、危険が伴うことを強調。かつて国内に約800あった炭鉱が、現在は釧路エールマインのみが存続。その一つの理由として前身の太平洋炭礦時代

から、会社と労働組合が協力して災害を口を目標し対策を講じたことで、大きな事故が発生していないことも挙げられると説明した。

最後に「何かを知りたい、学びたいという探究活動では、関連するさまざまな方面からアプローチすることが必要。目標を持ち、何を学ばねばならないのか複合的な視点で考えて取り組んでほしい」と呼び掛けた。

参加した伊藤蓮人さん(15)は「釧路が石炭で発展してきた町だということや採掘の危険性、二酸化炭素排出という負の面もあるが、産業を進化させてきた大切なものだと分かった」と話していた。

来年度学科転換、名称を変更

来年度に普通科が1学級減の4学級となり「文理探究科」に学科転換し、理数科が「理数探究科」に名称変更する釧路湖陵高校。校長の塙浩伸さんに新学科への抱負や取り組みなどを聞いた。

(聞き手・嶋守善一)

新しい普通科に進化

来年度から、学科転換しますね。

湖陵の普通科は、進学のスーパー普通科として、探究的な学習を通して、生徒自らが学びたい大業や将来進みたい道を見つけ、その進路実現を目指す。新しい学科に進化します。この学科転換で、湖陵の「道東のトップ校」としてのブランド力を一層向上させることも狙いです。「高き希望

は湖陵で実現」をキャッチフレーズに、教職員が一体バックアップします。なお、新設される文理探究科では、釧路学区以外からの就学枠が20%(現在は10%)に拡大される予定です。

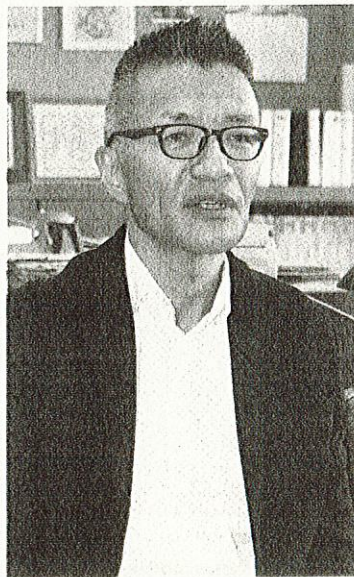
具体的な取り組みは、



塙 生徒が自ら、課題をより充実させます。生徒が外部講師による授業や見つけ、解決に向けて情報めとして、今年度から先行フィールドワークなどを導入し、整理・分析し、他して学校設定科目「湖陵ク」を通じて、興味・関心を高め、の生徒と協働しながら学び エスト(KQ)を開発し 探究的に学ぶために必要なを深めていく探究的な学習 ました。この科目では、生 知識や技能を習得します。

北海道釧路湖陵高校 校長

塙 浩伸さん



「湖陵の普通科は『進学型のスーパー普通科』として進化します」と語る塙さん

はなわ・ひろのふ 札幌市出身、立命館大学文学部地理学科卒。留萌高校(定時制)から教員生活をスタートし、札幌琴似工業高校、帯広柏葉高校で教員を勤め、その後、道立教育研究所・檜山、上川教育局、新しい高校づくり推進室などで勤務し、白糠高校長、道教委高校教育課企画・支援担当課長を経て2022年4月から現職。58歳

進学型のスーパー普通科に

総合型選抜を合わせた入学者の割合が、一般の学力検査による入学者の割合を上回りました。今後この傾向を強まり、これからの入試では「高校3年間で何を学ばなければならないか」が重要になります。湖陵はいち早く対応します。

8月に新学科説明会

8月に新学科説明会がありますね。

塙 8月20日に釧路市生涯学習センターで開催し、

探究的な学習の充実、進学型選抜への対応、国公立大との連携、私立大との連携、2022年度入学者選抜では、学校推薦型選抜と併せて実施されています。

来年度からブラッシュアップするII型制服(旧女子生徒用)もお披露目しますので、たぐさんの方の来場をお待ちしています。

来月20日 釧湖陵新学科説明会

「新しい学校を知って」

来年度に理数科が「理数探究科」に名称変更し、普通科が「文理探究科」に学科転換する釧路湖陵高校（増浩伸校長）と同校生徒会（是枝武之介会長）は8月20日午前9時45分から、市生涯学習センター（幣舞町4）大ホールで「新学科説明会」を開く。当日は来年度からブラッシュアップするII型制服（旧女子生徒用）もお披露目する。

午前9時開場で、同20分から軽音楽部が歓迎演奏。説明会は2部構成で、第1



来場を呼び掛ける湖陵高校の生徒

部では理数探究科、文理探究科それぞれの概要や入試に関する説明。理数科の生徒3人が「ワサビと薬剤耐性について」をテーマに探究活動発表も行う。

第2部（同11時）は蝦名大也市長をはじめ、卒業生

や在校生など7人がパネリスト、増校長がコーディネーターを務め「湖陵の『進化する学び』とは」をテーマにシンポジウムを展開する。



や在校生など7人がパネリスト、増校長がコーディネーターを務め「湖陵の『進化する学び』とは」をテーマにシンポジウムを展開する。

参加対象は釧路、根室、十勝、オホーツク管内の中学校、義務教育学校後期課程の生徒や保護者、教職員、教育委員会や学習塾の関係者ら。参加した生徒にはオリジナル「湖陵高校特製合格祈願シャープペンシル」をプレゼントする。

シンポジウムでパネリストを務める深津蒔さん（普通科3年）は「新しい湖陵で学びたい、新しい湖陵を知りたいと思っている人にぜひご来場いただきたい」と呼び掛けている。

申し込みは添付のQRコード（同校ホームページにも掲載）で行うか、0154（43）3131へ。

8月20日に新学科説明会

申込7月31日まで

探究活動発表やシンポジウムも



釧路湖陵

高校は、8

月20日午前

9時10分か

ら釧路市生涯学習センター

まなぼとと幣舞で新学科説

明会を開催する。6年度に

学科転換・学科名変更とな

る普通科と理数科に関する

概要説明を実施。このほ

か、探究活動発表やシンポ

ジウムなどを通して、教育

活動の内容について共通理

解を図る。申し込み期限は

7月31日、申し込み方法は

2次元バーコードまたは同

校へ直接問い合わせるこ

と。

説明会は、近隣の中学生

や保護者、地域住民等を対

象に、来年度の学科転換に

伴う疑問点などの解消を図

るため「同校がめざす姿」

および教育活動の内容を示

すことを目的としたもの。

当日、同校軽音楽部生徒

が自作曲による歓迎演奏を

実施するほか、理数科3年

生2人による「ワサビと薬

剤耐性について」と題した

探究活動発表を行う。

このあと新学科に関する

説明を行ったのち、塙浩伸

校長がコーディネーターと

なり、シンポジウム「湖陵

の「進化する学び」とは」

を行う。シンポジウムでは

蝦名大也釧路市長をはじめ

同校OB・OGの大学生や

同校生徒らが参加し、それ

ぞれの立場や視点から意見

を交わす予定。

探究活動への意識高め

釧路博物館職員招き出前授業

アイヌ文化など5分野で

釧路湖陵高校は6月中旬、本年度から開設した学科設定科目「Koryo Quest (KQ)」の一環として、釧路市立博物館の学芸員5人を講師に迎えた出前授業を行った。写真

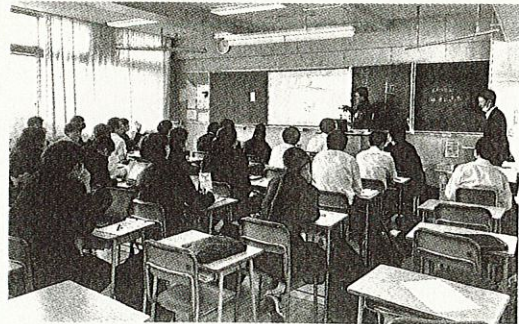
II。地域史や魚類・両生類など5分野に関する授業を受講した1年生は、今後取り組んでいく探究課題設定

の一助として、探究活動に対する意識の啓発を図った。

出前授業は、探究活動の目的や意義、基本的な手法について学芸員という専門的な見識や経験のある立場から、実践事例や心構えなどを直接見聞することで、探究活動に対する意欲の向上を目的としたもの。

この日、産業、アイヌ文化、地域史、昆虫、魚類・両生類の5分野について、同館学芸員の5人が授業を実施。このうち、アイヌ文

化分野では「民族共生について考える」と題し、和人とアイヌ民族の関係史やアイヌ人口割合の推移による近代社会におけるアイヌの



「昆虫の分類」目「まで」の分類と「目」と題し、同館に展示されていない貴重な標本を用いた授業が展開された。

同校普通科1年生の200人が参加。参加した生徒はあらかじめ希望した2分野の授業を受講した。分類学専攻の大学へ進学を希望

しているという白井天さんは「身近に豊富な専門知識を持つ人がいることをあらためて知ることができた。探究課題の設定の際に今回の経験を生かしていきたい」と感想を述べた。

同館の石川孝織学芸主幹は、授業中の生徒の様子について「質問の質が高く、探究への意識の高さがうかがえる」と話すとともに「今後も地域の将来を支える子どもたちの学びをサポートしていきたい」との考えを示した。

同校は市内研究機関による特別授業や生徒が企業等へ訪問する機会を設け、探究課題の設定への一助となる取組を今後も進めていく。

釧路湖陵高 6年度新学科設置へ

チーム体制整え準備推進

新科目「湖陵クエスト」始動

【釧路発】釧路湖陵高校（塙浩伸校長）は、国が進める普通科改革に対応した普通科新学科の6年度設置に向けた準備を進めている。国内外の大学、国際機関、企業等によるコンソーシアム「チーム湖陵」を設置し、生徒の多様な興味・関心に応じた教育活動を支える体制を整備したほか、本年度から先行して学科設定科目「Koryo Quest (KQ)」を開設。高校卒業後の進路を見据えた特色ある教育活動を展開している。

文部科学省は、社会に開かれた教育課程の実現とともに、地域・日本・国際社会の持続的発展に寄与する人材の育成を図るため、高校の指定を受け、探究的な学習活動を重視した進学型の新しい普通科の学科設置を目指す。同校は4年度から文科省

普通科5クラスを「文理探究科（仮称）」4クラスに、理数科1クラスを「理数探究科（仮称）」1クラスに転換する予定で、新学科の名称はことし秋の「公立高校配置計画」で正式決定となる見通し。

このほか、新学科の設置に先立ち、本年度から学科設定科目として「Koryo Quest (KQ)」を開設した。課題の設定に向けて、生徒の興味・関心を高めたり、データ分析など探究的な学習に必要な知識や技能を学ぶことを目的としたもの。また、難関大学等の入試にも対応できる学力の質の保証の観点から、各教科での学びを探究的アプローチによって深化させる教育課程の実現を重視している。

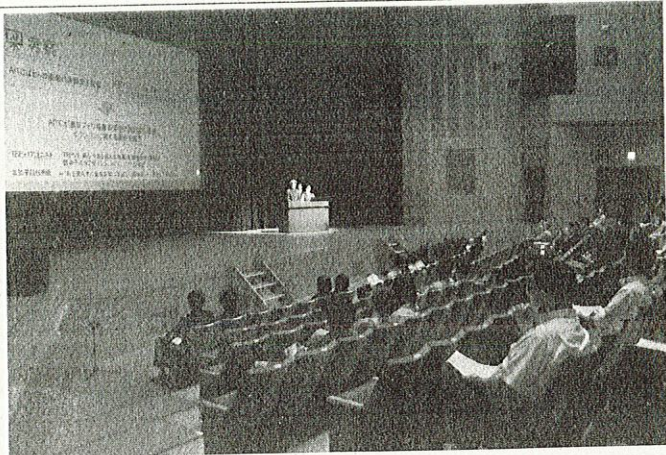
特に「文理探究科」については、文科省が4年度から普通科において新たに設置を可能とした「学際領域に関する学科」であり、現代的な諸課題のうち「SDGsの実現」「Society 5.0の到来に伴う諸課題」に対応するため、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学び

を重点的に取り組んでいくことなどが挙げられている。同校は多様化する社会で求められる資質・能力の育成に向けて、総合的な探究の時間を軸とした領域（教科）横断的な教育課程の実現を目指す。これに伴い、同校では探究的な学習の持続的な運営を推進するため、コンソーシアム「チーム湖陵」を設置。コーディネーターが企画運営や連絡調整を行い、大学や企業、研究機関等がプロモーターおよびサポーターとして、出前授業や講演会のほか、探究的な学習に対する指導助言や合同研究等を実施し、生徒の多様な興味・関心に対応できるような体制構築を行っている。

向には、釧路市立博物館の学芸員による1学年を対象とした出前授業を実施。参加した生徒からは「豊富な専門的知識を持つ人が多くいることをあらためて知った。今後の探究課題の設定に生かしていきたい」などの声が上がった。塙校長は、新学科設置に向けて「生徒が様々なことを見たり聞いたり体験したりすることを通して、湖陵での学びを深め、将来の職業も見据えながら、"入れる大学"から"学びたい大学"が見つかるよう、教育活動の充実を図りたい。湖陵は進化する」との姿勢を示した。

新学科説明会に400人

釧路湖陵高、制服も展示



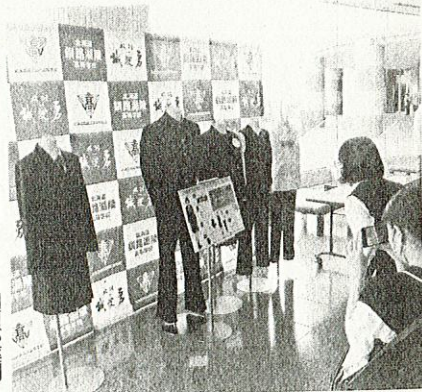
2024年度から新学科の設置が行われる釧路湖陵高校(塙浩伸校長)は20日、釧路市生涯学習センター2階大ホールで、新学科に関する一般向けの説明会を開いた。会場には来年度から新デザインになるII型制服も展示され、市内外の教育関係者や中学生の親子など、約400人が訪れた。

(鉾ノ原領吉)

同校は来年度から、5クラスある普通科を1クラス削減し、より実践的な知識を学べるよう内容を充実させて文理探求科に転科。合わせて理数科も理数探究科に名称変更する。学区外からの入学者も10、20%に広げ、幅広い地域から受験者を募集する。

この日はオープニングでミニコンサートが行われ、音楽研究部が自作した「探求科の歌」などを披露し、参加者を歓迎。会場入り口での新デザインの制服展示では、参加者がスマートフォンなどで撮影、人だかりができた。

説明会は2部構成で行われ、第1部は同校で学ぶ探求学習について紹介した。理数科3年の葛西陽菜さん、齋藤潤さん、寺崎清海さんが、抗がん作用のあるワ



会場でお披露目された来年度から導入されるII型制服など

サビの効果と食中毒の原因となる細菌が薬剤への耐性

を獲得する流れなどを調べた成果を報告した。新学科説明では、理数探究は文科省指定の「ハイバリーサイエンススクール事業」を活用し積極的な研究活動を支援すると説いた。文理探求科では出前授業やフィールドワークを通じ、答えのない課題に取り組む思考能力を養う独自の科目「湖陵クエスト」を紹介し、従来の学習との相乗効果が期待できるとした。

第2部は蝦名入也市長や同校OB、在校生ら7人がパネルディスカッションを行い、探求という言葉に対するそれぞれの認識や、今後同校に期待することについて意見交換した。最後に星枝武之介生徒会長は「自分でテーマを考えて答えを導く活動は自身の能力を高める機会になる。部活動や生徒会活動で掛け替えのない経験を得た。多くの人に湖陵高校で素敵な思い出をつくってほしい」と話した。

高校の新学科設置説明会

釧路湖陵高6年度設置新学科説明会

探究的な学び深化へ

活動発表やシンポジウム等

【釧路発】釧路湖陵高校（塙浩伸校長）は8月下旬、釧路市生涯学習センターで新学科説明会を開いた。より探究的・実践的な教育活動の実現に向けて6年度から設置する新学科や、3期目を迎える文部科学省指定事業「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」などについて説明した。市内外の教育関係者や中学生とその保護者ら約400人が参加。参加者は、探究活動の発表やパネルディスカッションなどを通して同校の教育内容への理解を深めた。

説明会は「同校の目指す姿」について広く周知を図るためのもの。2部構成で行った。オープニングでは軽音楽部の生徒が自作した「探究科の歌」を披露し参加者を出迎えた。

引き続き、理数科3年生の葛西陽菜さん、齋藤潤さん、寺崎清海さんがワザビと薬剤耐性についてと題して日頃取り組んでいる探究活動の成果を報告した。新学科説明では「SSH」を活用し探究活動に対して積極的な支援を行うことを説明したほか、独自設定科目「KQ」について難



関大学等の入試にも対応できる学力の質の保証を重視しており、各教科での学びを探究的アプローチによって深化させる教育課程の実現を目指していることなどを説明した。

第2部では「湖陵の『深化する学び』とは」と題してシンポジウムを行った。写真上。塙校長がコ

ディネーターを務め、同校のOB・OGである蝦名大也釧路市長や子ども家庭庁成育局成育基盤企画課の新免寛政課長補佐ら7人のパネラーと討論を交わした。

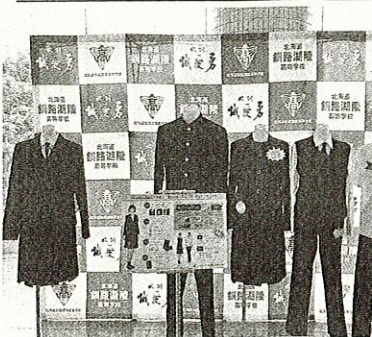
蝦名市長は同校の探究活動に取り組み生徒の姿について「正解のない問いに対して思考を停止しないで取り組む姿勢が素晴らしい。昨今デジタル化が進む社会でそういった人間ならではの姿勢、思考を醸成し、世界で活躍する人材となつてほしい」と期待を寄せた。また、新免課長補佐は新学科設置に伴う学習内容の変化について「湖陵で学ぶ価値が一層向上している。チーム湖陵の一員としてサポートしていく」と述べた。

また、成果報告した齋藤さんは同校を志望する中学生に向けて「探究的な学びを求める仲間が多くいて、異なる視点を持つ人と関わることで視野が広がり自分の学びの幅が広がる。その楽しさをぜひ体験してほしい」と同校の魅力を伝えることと視野が広がり自分

写真上。来場者は足を止め写真を撮影するなど、向上した機能性を持つ新制服に関心を示した。

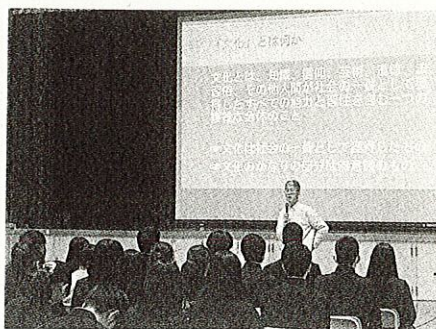
来年度から導入へ
II型制服お披露目
会場には来年度からブラッシュアップするII型制服（旧女子用）を展示し写真を低くさせるほか、成長に伴うお直しを3年間無料補償する。また、家庭での洗濯にも対応させている。

真下。来場者は足を止め写真を撮影するなど、向上した機能性を持つ新制服に関心を示した。



KQ一環で国立民族学博物館講演会 探究活動楽しむために 釧路湖陵高 平井教授招き

【釧路発】釧路湖陵高校(塙浩伸校長)普通科1年生約200人は16日、同校体育館で本年度から開設した学科設定科目「Koryo Quest(KQ)」の一環として、国立民族学博物館講演会に参加した。



同館の平井京之介教授が来校し、専攻する文化人類学に関する研究活動などについて講話し、生徒たちは探究活動に対する意識の啓蒙を図った。講演は探究活動の目的や意義、手法について専門的な見識や経験のある講師を招聘し、実践事例や心構え等を直接見聞することで探究活動に対する意識向上を図るためのもの。講師を務めた平井教授は平成4年にロンドン大学ユ

ニバーシティ・カレッジ人類学部修士課程修了のち、平成7年に国立民族学博物館に勤務。社会人類学や東南アジア研究に尽力している。この日「はじめての文化人類学く探究活動を楽しむために」と題し講演。

世界の様々な地域の文化や社会を比較研究することにより「人類とはなにか」を研究する文化人類学をテーマに、探究活動を楽しむために必要な心構えや注意点などを紹介した。参与的観察(フィールドワーク)で長期にわたり夕日に滞在し、日系工場で勤める日本人と現地人同士の異文化コミュニケーションの実態について研究したことを説明。長期滞在することで言語を理解した上で文

化を理解でき、円滑な研究活動を行えたことなどを伝えた。このほか、平井教授は生成AIなどの発展に伴いこ

の先の社会では知識そのものより、知識をどう活用していくかという姿勢が求められると述べた。また「進学に至っても大学や大学院での研究はまさに探究と云える。必要な資質と能力を高校生活で身に付けてほしい」とエールを送った。

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.15

令和5年6月23日発行

発行 探究科設置準備委員会

今年度から1年生に先行実施している「学校設定科目KQI」の授業で、6月14日（水）に釧路市立博物館の学芸員による出前講座を実施しました。生徒は、5名の講師による講義を5校時・6校時に、2講座選択して受講しました。

講師の方の学芸員になるまでの略歴や現在の研究分野を選択した経緯、学芸員の仕事内容などの説明から講義が始まりました。それぞれの専門分野の研究に関するお話とともに、今後の探究活動への心構えなどを事例を提示しながら、話していただきました。各講座の講義概要と、生徒のレポートの一部を紹介します。

講座1 産業『君たちは「炭鉱」を知っているか？』

講師 学芸員（学芸主幹） 石川孝織 先生

「日本の近代化と発展を支えてきた石炭。かつては国内に800以上の炭鉱があったが、現在は釧路に1つのみとなった。石炭や炭鉱について、なぜ釧路の炭鉱だけが今あるのかについての理由」を説明していただきました。



生徒のレポートより

- ・石炭は炭素資源の缶詰、海や川で数億年かけて作られた。石炭は石油・天然ガスとは違い、鉱山で人の手を使って掘るため危険が大きい。現在日本では釧路のみである。（坑内掘りも唯一）釧路の炭鉱が残っているのは災害率0を目指し、労働組合も機能していて事故がほぼ起きていないから。
- ・石川先生が、釧路の炭鉱に興味を持ち、居住地を変える程の行動力や興味のあるものへの調査や取り組みの姿勢は、私自身が今後の生活、授業の中で参考にすべき尊敬するところだと思いました。そして、これをするためには、勉強が必要であるということを実体験も交えて教えてくれたので、今の私ができることを積み上げようと思いました。

講座2 アイヌ文化『”民族共生”を考える』

講師 学芸員（主査） 城石梨奈 先生

釧路地域のアイヌ民族の歴史や、伝統文化、現在の文化伝承について、さらに”民族共生”とはどういうことなのかについて、講義をしていただきました。また、研究活動を続けている先生の思いや姿勢に、生徒は多くの事を学んだ様子でした。

生徒のレポートより

- ・日本の歴史は1つだけではない。文字を使う文化、使わない文化に優劣はない。和人が来てからの歴史は浅いが、北海道の歴史は浅くない。民族共生とは、互いの違いを認める、多方向からの声を聞く、相手の立場から考えること。
- ・博物館の3本柱 ①資料の収集・保管 ②教育・普及 ③調査・研究
アイヌ語にも方言があるというのが印象的だった。アイヌの方言が、地域によってどのように違うか調べたいと思った。
- ・アイヌ民族、アイヌ文化は身近な存在である。しかしアイヌの人々を今でも差別する人がいる。民族共生のためには違いを認め、互いを理解することが必要である。

講座3 地域史『地域を知ること』

講師 学芸員（主任） 戸田恭司 先生

戸田先生が記録してきた釧路の写真を見せていただきながら、釧路というまち・地域についての講義でした。大人にとっては懐かしい釧路の風景、生徒にとっては知らなかった釧路を発見となったのではないのでしょうか。

生徒のレポートより

- ・釧路は地理的に近い東北の人々、鳥取県士族、北陸からの漁業者など、全国から人々が移住してできた町だと分かった。また釧路は米町から始まってだんだん南大通りの方に広がっていったと知った。
- ・学芸員の留意点として、必要な情報よりも多く集めることや、恣意的な判断を防ぐことの2つを挙げていた。これらはこれから探究活動を行っていくにあたって、参考にすべきことだと思った。そして、学芸員という仕事は毎日が探究活動であり、それを幅広い世代の人々にどのように紹介するかという難しさがあるというも学ぶことができた。

講座4 昆虫『昆虫の分類－「目」までの分類と同定－』

講師 学芸員（学芸専門員） 土屋慶丞 先生

博物館では収集した資料を相手にした「分類との闘い」とのこと、昆虫の分類や分類学について、標本を提示しながらの講義でした。中学校の教科書に出てくるヤマユガや他の標本を観察している生徒たちの目が、輝いていました。



生徒のレポートより

- ・「少年の日の思い出」に出てくるヤマユガの標本が、見られた事が印象に残りました。他の標本もいくつか見られて、今度博物館に行って他の昆虫の標本も見たいし、標本の作り方も気になったので、調べてみようと思います。
- ・昆虫は口の形や翅のたたみ方などを細かく調べていき「目」までの分類は完了している。「綱・目・科・属・種」の順により細かく分類されていき、中でも「属」や「種」は専門家の領域である。

講座5 魚類・両生類『希少生物の調査・研究と保護・保全』

講師 学芸員（主査） 野本和宏 先生

釧路湿原などの貴重な自然環境の中で暮らしてる、絶滅危惧種や天然記念物に関して、その調査の意義・手法、保護や保全のあり方などについて、事例をあげながら説明していただきました。また、湖陵から見える春採湖の生物や環境についても話題になりました。

生徒のレポートより

- ・キタサンショウウオといった生物が、釧路湿原という身近なところに生息していて、その生物の生息適地が、ソーラーパネルの設置により奪われている。そのために、調査や研究、保護・保全など地域に密着し、様々な連携をしながら活動をしている。
- ・GISを活用したキタサンショウウオの生息地の推測が、特に印象に残りました。最近、地理総合や講師の方などからGISを利用したデータを知り、自分でもGISを活用して絶滅危惧の生物たちの保護や環境の保全を、地域や釧路のために行っていきたいです。

生徒は、学芸員の皆さんの研究活動に励む姿勢に接し、今後授業で取り組む「探究的な活動」への取り組み方を学ぶことができた、有意義な時間となりました。

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.16

令和5年10月4日発行

発行 探究科設置準備委員会

ご報告が遅れましたがKQ Iで実施した「校外巡検」について掲載いたします。

日時 9月15日（金）13:00～15:00

巡検先 釧路工業技術センター・釧路コールマイン株式会社・NHK釧路放送局・
釧路地方裁判所・釧路市水産資料展示室・株式会社釧路製作所
株式会社ニッコー・株式会社釧路新聞社・株式会社釧路火力発電所・
ニトリ釧路店・釧路市立博物館・釧路海上保安部 以上12機関

当日は天候にも恵まれ、生徒は3校時終了後に各自で、巡検先へ移動しました。NHK釧路放送局ではお天気中継の体験、釧路地方裁判所では模擬裁判、釧路海上保安部では「巡視船えりも」の見学など、他の事業所でも日頃見ることができないものを見学し、体験させていただきました。事前学習で巡検先の概要を調べて質問事項をまとめて、巡検に臨みました。釧路のことを知る、職業を知るという良い学習ができたと思います。

生徒のレポートから「自分の今後に生かしたいこと」を一部抜粋して紹介します。

【釧路工業技術センター】

他の機関と連携を取ることの大切さや、技術による地域おこしの良さを感じました。お話を聞いて、未来でも機械にできない仕事はあってそれを人がやっていくというスタンスは変わっていかないと感じました。また、技術開発は一つの企業や組織がやるのではなく、様々な機関が連携し合って生まれているので協力することの大切さを感じました。

【釧路コールマイン株式会社】

釧路コールマインの経営理念である「地域とともに環境を考え、社会を創る」という考え方を他人事にせず、自らSDGsなどについて積極的に考え、地域の環境への意識を高めることを大切にしたいと思った。

【株式会社釧路新聞社】

普段はあまり表に出ない仕事内容を学ばせていただき、本当にプロフェッショナルな仕事だと思った。社内見学でも、一つの単語の使用について、4・5人で話し合っていたり、「人の想いを人に伝える」「こまかいことを正確に」という見えない誠意が大切だと分かった。自分の生活でもどこか手を抜いてしまうところがあったり、「まあいいか」で済ませている部分があるから、細部までこだわったり、自分の意志に忠実に勉強や物事を進めていきたいと思った。

【釧路地方裁判所】

裁判官に必要なのは法律の知識くらいだと思っていたが、実際には絶対に私情を持ち込まず、公平かつ平等でないといけないとわかった。このようにその仕事に対して思い描いている事と実際の事が違う場合はたくさんあるだろうし、裁判官の固い意志のように勉強では手に入れたり養っていくことができないことはあるので、今のうちからいろいろな経験をして多くの能力を養っていききたいと思った。

〈釧路地方裁判所〉



〈NHK釧路放送局〉



〈釧路市水産資料展示室〉



【NHK釧路放送局】

相手の立場になって考えることや相手にどのように伝えることでわかりやすく伝えられるかなどを考える事が大切だと思った。取材をする時には、その情報が真実か否かをしっかりと見極めることが大切なので、情報社会が進む私たちの生活の中でもたくさんの情報で溢れかえっているため、偏った情報だけに執着せずに、正しい情報かを見極めていくことが大切だと思った。

【釧路市水産資料展示室】

釧路の水産業についてよく知らなかったが、職員の方のお話を聞き、釧路の漁業の歴史を知ることができる展示を鑑賞して、釧路の水産業に対する理解を深めることができた。今後進路を考える際、自分にとってやりがいのある仕事を見つけられるように視野を広げていきたいと考えた。

【株式会社釧路製作所】

釧路製作所の大きな特徴として、働きやすい環境を整えたり、釧路で使用される製品を作ったり、釧路市の代わりに公園を管理したり、社員や地域を第一に考えている企業だなと感じた。そのような思いやりのある会社だからこそ釧路から信頼される会社なのだと思う。単純に利益だけを考えるのではなく、地域貢献など社会にも役割を持てるような会社が、この先いざばん必要になってくると考えた。自分のことばかり考えるのではなく、相手のことを思いやり生活していきたいと思う。

【株式会社ニッコー】

ロボット産業の実態とこれからの未来に関して学ぶ事ができた。ロボットが人によって変わって仕事をしていき、これらを上手に使えば少子高齢化や過疎・過密、経済衰退などの日本の問題が改善・好転していくのではないかと考えられる。そのような社会の中で自分はどのようなことをしていきたいか、可能性を広げていきたいので学力や知識や経験が足りないせいで、夢を追えないことにはなりたくないの、これから勉学に励んで前へ進んでいこうと考えた。

【株式会社釧路火力発電所】

自分がやりたいプロジェクトやアイデアについて計画するとき、周りの人々や環境に不利益ではないか・メリットはあるかなど、軸となる部分だけでなく、より視野を広げて改善していくことが必要だと思った。KQで地域創生プランを考える際、目の前の問題解決のみにこだわらないように気をつけたい。

〈釧路火力発電所〉



〈釧路海上保安部 巡視船えりも〉



【釧路海上保安部】

人命救助の際に相手の命を守るだけでなく救助する側である自分たちも負傷しないようにすることを心がけるとい、先のことを見据えた行動をそらなければならないという点においてこれからの生活に活かして行きたいと思った。

【ニトリ釧路店】

ものを売るという視点からでは自分や自分たちの考えが中心になってはいけないということ学びました。必ず買い手がいてその人達の声が第一優先であり、考慮しなければいけないということです。自分よがりにならずに必ず他者との関係をより良く築いていくことが大切だと思います。

【釧路市立博物館】

将来学芸員の仕事に就くことも考えていたが、今回実際に学芸員の方のお話を聞いて様々な工夫や想いを知り、ますます素晴らしい仕事だと感じた。ただ展示するだけでなく「お客さんに何回でも来たいと思ってほしい、楽しいと感じてほしい」という思いでたくさんの工夫をしているのを尊敬する。私もそのようにお客さんだけでなく相手のことを思える人になりたい。

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.17

令和5年10月31日発行

発行 探究科設置準備委員会

10月16日（月）に開催しました講演会の概要を報告をいたします。

『講演概要』

本校コンソーシアムのサポーターメンバーである、国立民族学博物館から平井京之介先生に大阪から来釧していただき、「はじめての文化人類学—探究活動を楽しむために！」と題して講演をしていただきました。

平井先生は大学卒業後、民間企業に就職しましたが、文化人類学を学ぶために25歳の時に退職して、英国に留学しロンドン大学経済政治学院でPh. D. 取得、1995年から国立民族学博物館・総合研究大学院大学で教授として研究活動をされています。講演は、「文化人類学とは何か」「わたしの探究活動」「探究活動に向けて」の3部構成でお話が進みました。

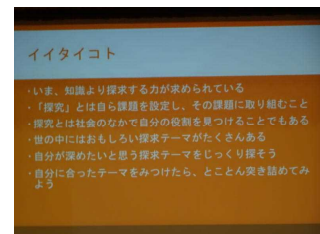
「文化人類学とは何か」では、文化人類学の研究対象、研究方法としてのフィールドワーク、研究テーマや質的研究・量的研究についての説明がありました。



「わたしの探究活動」では、平井先生が実施したフィールドワークの中から事例（失敗例も含めて）を説明していただきました。タイの日系工場では、現地の従業員と仕事をしたり、ラオスでは仏教僧の研究ということでご自身も出家して僧侶と生活・修行を共にした体験を交えてのお話でした。

「探究活動に向けて」では、探究活動の進め方について①テーマを探す、②問いをつくる、③取材する、④情報収集する、⑤整理分類する（KJ法）、⑥その他 の順に事例を挙げて、詳しく解説してくださいました。

最後に「知識より、知識をどのように使うか、自ら学びを進める力が重視される」「探究とは、社会の中で自分の役割を見つけ、自分らしい生き方を実現する力を養うこと」とのメッセージを頂きました。



『講演終了後に集約した生徒の感想』

- ・周囲に興味を持ち、自ら課題を見つけ、主体的に問題を解決することがこれからの社会のために必要だと感じた。課題解決する力、課題解決に必要な情報収集力、情報を整理分析して答えを出す力を探究活動を通して身につけていきたい。
- ・日常生活の中で積極的に疑問に思ったことを調べようと思った。インターネットで調べるのが主流になってきているが、図書館や新聞、雑誌、事典、概説書、入門書、学術論文など調べる手段はいろいろあることを講演で学ぶ事ができたので、いろいろな方法で調べていこうと思った
- ・私は将来文化人類学を学びたいと考えているため、実際にどのような活動をされているのかを詳しく聞くことができとても良い時間になりました。そもそも文化人類学とはどういった学問なのか。また、どのようにしてフィールドワークを進めていくのかということを知ることができて、改めて自分が何をしたいのかを考えることができました。
- ・探究活動を行う上で、取材や様々な文献を参考にすることがあるがその際に個人や団体の情報を勝手に流出したり、取材相手に対して失礼な態度を取らない、文献の出典明示を必ず行うなど、日常生活でも気をつけなければならないことを、今回の講演で改めて学ぶ事ができた。また、取材相手の事は事前に調べておく、取材先で勝手な行動を取らないなどごく当たり前の事だが、今の人達があまり気にしていない事も改めて常識として学び、今後の生活でもより一層気をつけようと考えた。

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.18

令和6年2月7日発行

発行 探究科設置準備委員会

和歌山県立橋本高等学校とのオンライン交流について、報告します。橋本高校は、本校同様に普通科改革支援事業の指定校で、昨年1月に学校視察をさせていただいたことを契機に生徒の交流が始まりました。今回が2度目の交流です。

日 時 2月2日（金）5校時

対 象 橋本高校2年生（5クラス）と本校普通科1年生（5クラス）

橋本高校2年の井田理恵さんの司会進行により、オンライン交流を開始しました。今回はクラス単位での交流を実施しました。

1 橋本高校生徒の発表と質疑応答

橋本高校は「SDGsの達成を視野に入れた学習」を実施しています。2年生はSDGsの17項目の目標から課題を設定して探究活動を行っており、「食品ロスをなくすために」など、身近な課題について探究した成果を発表しました。その後、本校生徒からの質問に答えていただきました。



2 本校生徒の発表と質疑応答



昨年9月に開催した発表会「地域創生に関するプラン」の中から、各クラス代表が発表しました。この内容は11月に「NoMaps 釧路・根室2023」の「高校生ビジネスコンペティション」で発表したものです。

「釧路管内を盛り上げよう」「釧路養殖物語」など、釧路市や釧路管内の課題を解決するために探究活動を実施した成果を発表しました。

3 グループ交流

クラス毎に4グループに分かれ交流を実施しました。短時間ではありましたが、お互いの学校の学習や学校生活に関すること、橋本市と釧路市の紹介など、積極的に意見を交換することができた様子でした。



橋本高校は、平成18年に和歌山県立古佐田丘中学校を設置し、「併設型中高一貫教育校」として現在に至っています。世界遺産高野山の麓に位置していることもあり、高野山の文化・歴史に関する学習も実施しています。

次年度以降も、交流学习を継続するため今後も橋本高校と連携を取りながら、事業を進めていきたいと考えています。